

研修名 保育実践（音楽遊び）

平成31年2月14日(火) 13:30~16:00

講演・意見交流会 「楽しい音楽あそび」

講師 今里こども園 笠置 英恵 氏

## 1 講演要旨

### 1) 楽しい音楽遊び

- ・音楽遊びの目的は、楽しい場を提供する事。その中で子どもの発達段階に応じた機能、意識の向上、基本的な集団スキルの向上を図る事である。
- ・子どもの発達に適したもの、子どもの関心をひくものを取り入れる事が楽しい活動を提供するためのポイントとなる。選曲、演奏の形態、伴奏、テンポ、リズム、音量なども工夫していく。
- ・保育者は優しい言葉掛けで、子どもに「これから楽しいことが始まるよ」と誘いかける。子どもの様子に応じて臨機応変な対応をする。

### 2) 活動の組み立て方

- ・年齢やクラスの構成人数、により活動を組み立てる。
- ・ある程度、枠組みのゆるい自由な活動 ⇔ 枠組みのしっかりした活動
- ・動的な活動 ⇔ 静的な活動 など、どういう順番で行うのが効果的。

### 3) 活動内容 ※曲により数名ずつ、前に出て活動を体験する。(子ども、保育者になって)

- ・あいさつ(始まりの歌) ♪手を叩こう足を鳴らそう ♪ともだち(関西弁のおもしろさ)  
活動の始まりの合図、その日の様子を知る、課題を含むこともある。スキンシップをしながら、子どもが受け入れやすいテンポで
- ・遊び歌(ラーニングソング) ♪何人いるかな(数への関心) “男の子はなーんにん?” 子どもに数えさせる ♪同じものはどれ?(カテゴリー分類) その他動物の鳴き声や感情の表し方(泣きたいときはどうする?怒りたいときはなど)
- ・楽器を使った活動 ♪みんなで太鼓をたたこう ♪ラッパをふこうよ  
♪楽器取りゲーム など(この楽器鳴らしてみたい!吹いてみたい!と思えることが大事)  
始点と終点がわかりやすい曲、鳴らしやすい楽器を使う。曲の途中で止める、曲を変えるなどして聴く力を養う。子どもの自発性を妨げない、援助しすぎない、楽器は大切に扱うが操作方法を押し付けないなどの点に注意。
- ・身体を使った活動 ♪アラビアンダンス ♪ポーズゲーム ♪わごむになーれ など  
粗大運動、微細運動、物の操作、社会性、自発性、簡単なルールの理解、模倣、表現  
小道具(布など)を使う事もある。イメージを持てるような言葉掛けをする。
- ・終わりの歌 ♪ふたつの音のことば ♪スタレのうた(反対言葉) ♪風船  
♪おたずねソング ♪音楽ビンゴ ♪なぞなぞ など  
活動の終わりの合図、クールダウン。子どもが考えたり、イメージを持てるような問いかけをする。活動の流れを準備しておくことで、子どもたちは見通しが持てる。

#### 4) 最後に…みんなで歌いましょう ♪みんなが、みんな英雄

## 2 感想

常に笑い声が溢れる音楽あそびの場面を動画で見る事では、子どもたちが毎回のセッションをととても楽しみに参加していることや、支援の必要な子どもたちが活動の見通しを持てるようになったり、周りの子どもたちと溶け込み楽しそうに参加していることを感じ取ることができました。♪何人いるかな?の数え歌のセッションでは、子どもたちが一人ずつ友達に触れながら数えていく際、要支援の子がそっと友達の頭に触っていく様子が見られた。触る際の力を加減しながら、クラスの子どもたち一人一人を確認する様子、また触られる他の子達も自然に受け入れている様子なども微笑ましく思えました。日々の保育でも、じつとできなかつたりグルグルと回ったりする子どもがいて対応の難しさを感じることもあるので、実際に自分が体験してみて感じたことを大切に遊びを取り入れてみたいと強く感じました。また、一つ一つの遊びに明確なねらいがあり、“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”に繋がっていることも理解できました。講義を聞くばかりではなく、受講者たちが実際に“子ども”や“保育者”になって遊びに参加する、体験型の研修は、自分自身も含め、誰もが楽しく実感し、学べたのではないかと思います。最後の合唱では参加者全員の歌声が一つになり、爽快で楽しい締めくくりとなりました。

( 記録 今里こども園 藤山 直美 )

